



令和7年9月11日分校

令和7年9月16日本校



チームたかとく・はくれい

「なかよく学び すすんで働こう」「希望・意欲・自立」

子どもの育成を目指して -分校・本校職員会議-

～自分のできることで、まわりの人を笑顔にしよう!幸せにしよう!～

上 松 武

■2学期がスタート!

- ・9月1日(月)に始業式を行い、「どんなことにも一生懸命に!!」と本校・分校の児童生徒に伝えました。一生懸命に取り組む姿は、周りに元気を与え、「私もがんばらなきゃ」と気持ちを奮い立たせてくれます。一生懸命に取り組む姿を見ると嬉しくなり、「ありがとう」と感謝したくなります。下の写真は1学期の「一生懸命な姿」のひとコマです。2学期はこの姿を超える一生懸命さが児童生徒一人一人に見られるよう、私たち職員一同、心一つに指導支援に当たっていきましょう。



駅北復興住宅の清掃(市からの依頼を受けて)



卒業後を見据えた職場見学(高等部3年校外学習)

- ・私の2学期の目標を始業式で宣言しました。それは「みなさんの一生懸命を157こ(分校は22こ)よりたくさん見つけること」です。子どもたちのカッコいい一生懸命な姿を、一人1つ以上は見つけて紹介します!

~~~~~

夏季休業後半においても、たくさんの学びがありました。先生方と共有したいと思います。参考になる内容があったら幸いです。

## ■8/22 本校「知っておきたい障がい基礎年金」～進路指導全体研修から～

- ・意外と分かっていない「障害基礎年金」について、佐藤洋司様(あすか中央社会保険労務士法人)からお話をお聞きしました。
  - －「障害年金」は、病気やケガ等の障がいにより、仕事や生活が大きく制限される状態になっても、安心して生活が送れるように用意されている年金である。
  - －「障害年金」は、令和7年度の金額で次の額が支給される。
    - 1級 年間 1,039,625 円(月額約 86,635 円)
    - 2級 年間 831,700 円(月額約 69,308 円)
- ・質疑応答(次のページ)の中で、次のやりとりがとても気になり、私たち職員が注意して保護者の方にお声掛けをしたいと思います。
- ・「知らなかった…」ということにならないように、知っておくべきを知り、常に最新の内容にアップデートしていきましょう。

Q 申請するにあたり、社会保険労務士さんに相談をするのはどのタイミングがよいのでしょうか。

A 支援学校の生徒さんのケースを想定してお答えします。既に医療機関への受診があり、20歳になった時点で申請できる方であれば、20歳の誕生日の3か月前（余裕を持たせたければ6か月前）ころに相談できれば、20歳になってすぐのタイミングで申請をすることができると思います。

それ以降でも65歳までであればいつでも申請はできるので、いつ相談しても問題はありませんが、申請が遅くなると受給できる額（期間）がその分少なくなるので、早めに動く方がよいです。

## ■8/25 本校「寄宿舍を取り巻く現状から、教育的機能や意義を保護者にどうアピールしていくか」～上越地区特別支援学校寄宿舍指導員研修会から～

- ・北海道教育大学の小野川文子様と Zoom でつないで、研修会前半にご講義いただきました。後半はご講義の内容を受けて、いくつかの視点からグループ協議を行い、最後に小野川先生からご指導をいただきました。
- ・小野川先生は、特別支援学校寄宿舍指導員を長くご経験されており、お聞きする内容には強い説得力と納得感がありました。学校経営に大きな示唆をいただくことができました。
- ・特に印象に残ったことをいくつか紹介します。

### 生活技術の獲得が自信へ

- ▶「掃除、洗濯など家にいたらやっていなかった」
- ▶「将来、1人暮らしができる自信につながった」
- ▶学校教育で身に付けた技術・スキルを生活の中で生かさせてこそ、「生きる力」に！  
寄宿舍にある「日常の生活」

※生活訓練との違い ※生活の必然から

### 学部でつけた力が生活の中で発揮されること＝「生きる力」

- ▶「学校ではできるけど、家に帰ればできない」
- ▶「親が全部やってしまう」
- ▶「どうしても指示待ちになってしまう」

↓

- ・子どもが、仲間の中で、主体的な生活を送ること
- ・障がいのある子どもにとっては、そういった場を意図的に用意していく必要がある
- ・学部と寄宿舍が連携することができる寄宿舍併設特別学校の価値・魅力はここにある

- ・全国的に寄宿舍が廃止されている昨今、「当校の寄宿舍の魅力は何か」「存在意義は何か」一生懸命考えていきます。

## ■8/25 本校 非違行為根絶研修

～「教職員のわいせつ行為根絶に向けた職員研修」から～

- ・愛知県名古屋市の教員が盗撮した児童の画像を SNS 上のグループで共有し逮捕されるというわいせつ事案が起こり、大きな社会問題になっています。
- ・それを受けて、新潟県教育委員会から上記の職員研修を行うよう指示があり、本校、分校ともに『校内研修資料』（県教委作成）に掲載されている事例をもとに研修を行いました。
- ・本校では、「おしゃべり会」のグループで話し合いを進めました。その後、「個人として気を

付けていきたいこと」「組織として気を付けていきたいこと」「自校において気になること、心配なこと」の項目ごとに考えをまとめました。

- ・児童生徒の指導支援に当たる全職員で共有したいと思った内容をいくつか紹介します。

－生活年齢にふさわしい対応をすること

－異性介助には十分な配慮をすること(※小学部低学年で男子の介助に女性職員が当たることあります。)

【例】「〇〇さん、濡れたからかえるね」「〇〇さん、□□触るね」と事前の言葉かけをする。

－スマートフォンなど、個人の端末で活動の様子は絶対に撮らないこと

－不適切な言動を指摘し合える雰囲気づくりをしていくこと

－誰が聞いても納得ができる、説明がつく行動をとること

－声に出すこと、人に伝えること。これがないと分からないし、何事も始まらない。事案によっては初期対応の遅れになってしまう。

－周りの職員への気遣いや“気にとめる心”“大切に思う心”をもつこと

- ・どれも大切なことであり、心して実践していかなければいけないことです。
- ・しかしながら、8月27日(水)の白山会館での「同和教育、人権教育の研修会」で、講義の最中にラインの着信音が4, 5回鳴りました。参加の皆さんは気付いていたでしょうし、いい気持ちではなかったと思います。でも、その想いを誰も行動に移さなかった。恥ずかしながら私もその一人でした。
- ・上記の感想を抱きながら、自分自身と誰も行動しなかったこの組織に、大きな危機感を感じました。「言えない、言った後のことが気になる」などの雰囲気があるのではないかな。そして、最悪の事態として発覚した時に「実は、〇〇でした。黙っていてすみません」ということにならないか。このようなことを背筋が凍る想いで危惧しています。
- ・例えば、同僚の行き過ぎた指導に遭遇した時、その場で指摘するのはいろいろと考えてしまっていてできないのであれば、せめて周りの職員に声を出し伝えましょう。そして、管理職に報告してください。130名の先生方全員が安心してやりがいをもって勤務できている高田特別支援学校にすることが私の責務です。覚悟をもって対処します。

## ■8/25 分校「高等部卒業後の生活について」～令和7年度 PTA 主催進路講話から～

- ・糸魚川市福祉事務所地域包括ケア係の飯田係長様、上越地区手をつなぐ育成会の松原義一会長と山川美香副会長の3名を講師にお招きして、糸魚川市の障がい福祉サービスの説明と高等部卒業後の生活について、生の話を伺いました。
- ・中でも、当事者でもある山川副会長がお話しされた、次のことに強く共感し、教育活動の重要な柱に思いました。

### 大人の生活の準備

・障害者基礎年金の申請のことを知る、該当するなら準備をする。

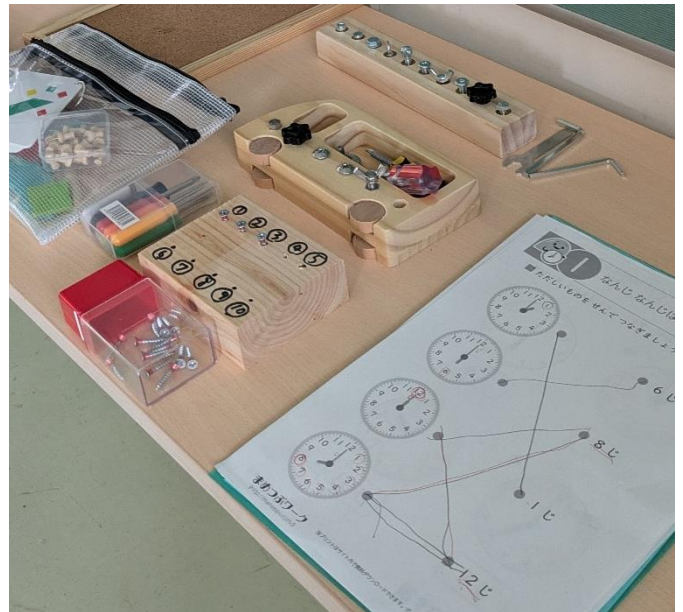
・地域の福祉制度と福祉事業を知っておく。

・卒業後の生活に必要なスキルの習得。

身辺自立、集団参加、コミュニケーション、働く姿勢、余暇の過ごし方など学校生活の中で学んでおく。

・保護者や育成会とつながっておく。学校のように情報提供するところはありません。福祉制度は変わることもあり、地域の事業所の状況も変わります。

本人、保護者、家族が情報を得ないと、取り残されていきます。



## ■8/28 本校 小学部教材教具展示

- ・小学部すべての学級が、個別学習などで使っている教材教具を各教室で展示しました。とても意味のある取組です。
- ・他校からも数名見学に来られた先生がいたそうで、教材に関する情報発信と共有につながります。いくつか紹介します。参考にしてみてください。

## ■「一隅を照らす」先生方の実践

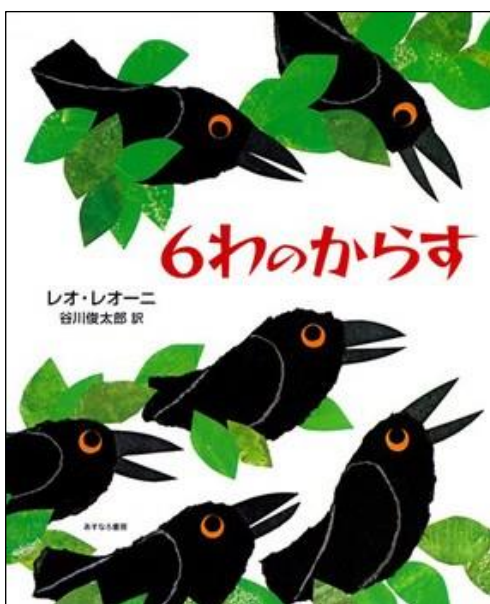
- ・先生方お一人お一人が、いろいろな場所で、持てる力を発揮したり貢献したりしている姿に触れることがたくさんありました。今回はお二人を紹介します。

○A先生：高等部卒業後の姿を知りたくて、自主的に市内の福祉事業所へ2日間見学参観に行かれました。卒業後の姿から、学校教育を受けている間に力を入れないといけないことが分かったと話してくれました。

○B先生：ご自身が参加している若者支援のサークルで、講師を招聘し『価値ある存在として～「叱らないけど譲らない」提案・交渉型アプローチの有効性～』という講演を企画運営されたそうです。資料をいただき、中でも「自己選択・自己決定。「選択」こそが、人間に活力を与える」という言葉に共感しました。

## ■絵本の紹介

『6わのからす』 レオ・レオーニ 谷川俊太郎訳



### 内容紹介

ムギをめぐって6わのからすと農夫が知恵くらべ。でも、そんなことをしているあいだに畑のムギは…。敵だと思いこんでいた相手とだって、ちゃんと話せば、きっとわかりあえる。  
(絵本ナビホームページから引用)

8月に妻の実家に帰省した時に、『レオ・レオーニの絵本づくり展』に行きました。『スイミー』が著名ですが、この絵本は今の大人こそが読むべき絵本だと思い、購入してしまいました。絵本の中の、次のセリフが好きです。

「はなしあいにておくれは ないよ」

「ことばには まほうの ちからが ある」

「ことばの まほうさ」

誰が、どんな場面で言うのでしょうか。ぜひ、手に取って読んでいただき、実践しませんか。